

花組の日々

園芸別科 花卉専攻 2年

平野 綺香

あと数か月…。花組、こと園芸別科花卉専攻2年の私はあと数か月で修了予定です。

そこで私の2年間とともに花組について振り返りたいと思います。

昨年春…。実家から少ない荷物を持って千葉に来た私は、まだ慣れぬ環境に戸惑いつつ二年間の花組の生活をスタートしました。

入学してすぐに、先輩から松戸キャンパスの温室管理作業のひとつの灌水作業を教わりました。ただ水をかけるのではなく、気温や天気なども見ながら1鉢1鉢灌水することを教えられました。灌水当番は花組のみんなで毎日ローテーションを組んで行っています。最初は2人で、慣れてきたら1人で。

先輩は灌水方法以外にも、「この植物は何科で特徴は…」と、1000属検定に向けてのアドバイスも教えていただきました。

怒涛の母の日の出荷。暑い暑い夏休みの実習。そして、学校生活にも慣れてきた頃、戸定祭の季節になりました。戸定祭では、春から先輩たちが計画し、育ててきたパンジーやOBの方々との協力のもと得た多くの植物などを販売しました。そこでは原価に対しての販売価格や、販売する際にどんな風に育てるかなどの植物に対する基礎知識などを学びました。また戸定祭は先輩と後輩、同期の仲を深める良いきっかけになりました。

そして冬、本格的に1000属検定の勉強を始めました。今までは土が乾いていないか？枯れていないか？などを気にしていた灌水も、属名や科名、特徴も気にするようになりました。

2度目の春、先輩は去り、後輩が来た4月。去年私たちが教えてもらったことを今度は教えるときが来ました。最初はもちろん灌水です。灌水も教える立場になって発見できることがあります。

そんなこんなで私の学生生活の折り返し地点は過ぎました。往路はただ指示されたことをやる実習でしたが、復路では「この実習内容なら

この道具が必要」と、いろいろ自分たちで考えます。実習も何となくこなすのではなく、「どうすれば効率が良いか?」「このやり方よりもこの人のやり方のほうが早い」など、しっかり向き合っていくようになりました。

1年生と2年生の違いは1年間の花組の経験の差だけです。実際私は普通科の高校を卒業しましたので、花の知識は今年入学してきた1年生の方があるかも知れません。でも私は先輩として「去年はこの時期にこの植物を播種して、この時期にこんな状態で出荷したよ」とか「出荷用のダンボールはこうやって組み立てるんだよ」とか、これまで教えられたことを教えるだけでなく、行動で見せたりして1年生に示せたらと思っています。そして来年以降に入学してくる学生にも伝わって行くと良いなと思います。

日々の実習のスキルアップ、修了実験のヒマワリの栽培試験、戸定祭の植物の栽培計画、1000属検定…。私が毎日毎日花組について考えない日はありません。これがあと数か月続きますが、来年度はまったく違う環境に居るんだろうなと考えると、少し寂しい気がします。花組でのたくさんの出会いや経験は、今後大きな宝物になると思いますが、とりあえず今は、今のことに一生懸命向き合っていきたいと思っています。



花組仲間とネメシアの挿し芽の実習風景（右から3人目が筆者）